

熱中症による救急搬送の状況

救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行い、全国で毎年4万人以上の方が熱中症により救急搬送されています。今年度は、4月29日から調査を開始し、6月30までに8,510人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送され、昨年度の同時期と比較して750人増加しました。

昨年度の全国の熱中症による救急搬送人員は95,137人で、5月から9月までの熱中症による救急搬送人員の調査を開始以来、最多となりました。今年度も、熱中症に対する予

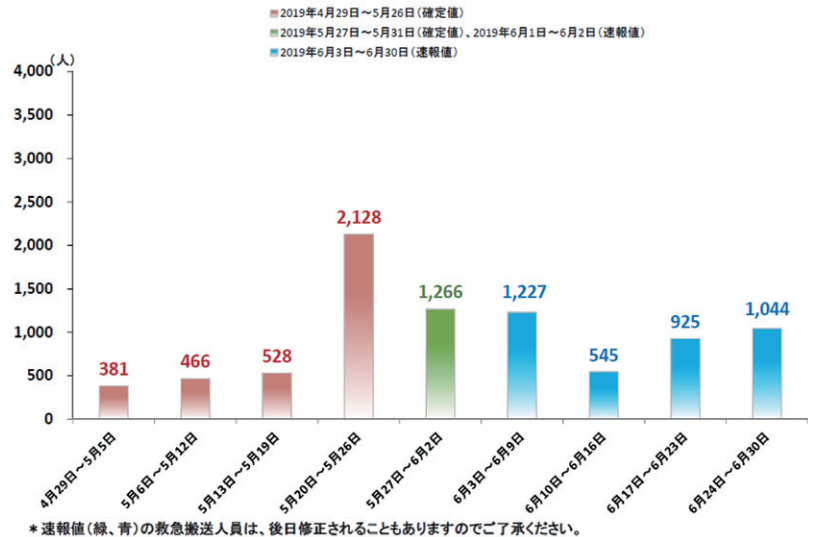
防が必要であり、住民の熱中症に対する関心を更に高め、あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていただくことを目的として、今年度の熱中症による救急搬送状況・予防等についてお伝えします。

2 熱中症による救急搬送状況

① 週別の推移 (図1)

5月20日～5月26日に救急搬送人員が急激に増加していますが、5月27日からの週の救急搬送人員は500～1,000人前後で推移しています。

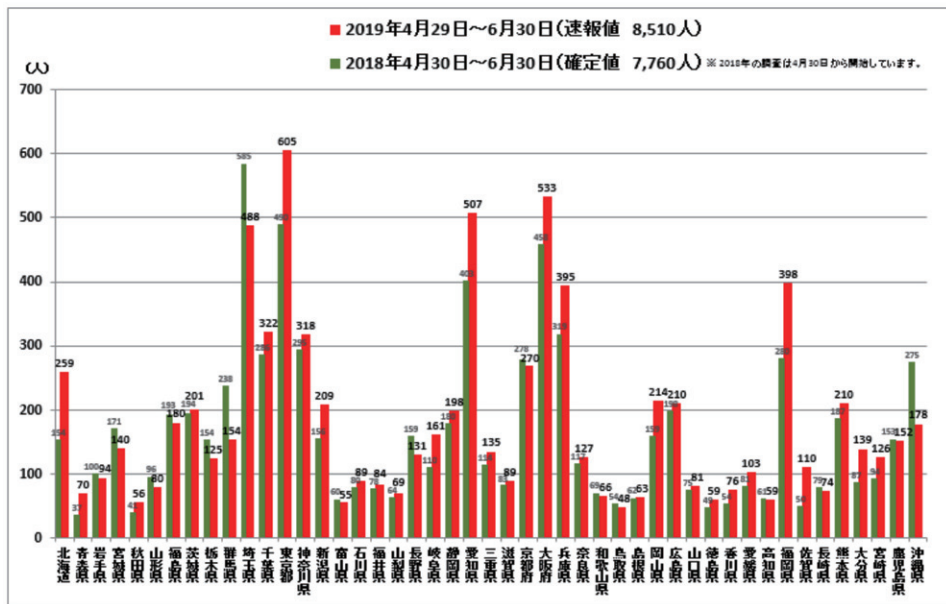
2019年の熱中症による救急搬送状況 (週別推移)



*速報値(緑、青)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

図1

2019年 都道府県別熱中症による救急搬送人員数 合計搬送人員数 前年との比較 (4月29日から6月30日)



*速報値(赤)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

図2

② 都道府県別の合計（図2）

4月29日から6月30日までの熱中症による救急搬送人員の合計8,510人のうち、東京都が605人と最も多く、次いで大阪府533人、愛知県507人、埼玉県488人、福岡県398人となっています。

③ 年齢区分ごとの救急搬送人員数（図3）

4月29日から6月30日までの熱中症による救急搬送人員の合計8,510人のうち、高齢者が4,087人と最も多く、次いで成人2,599人、少年1,679人、乳幼児145人となっています。救急搬送人員の半数近くを高齢者が占めます。高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

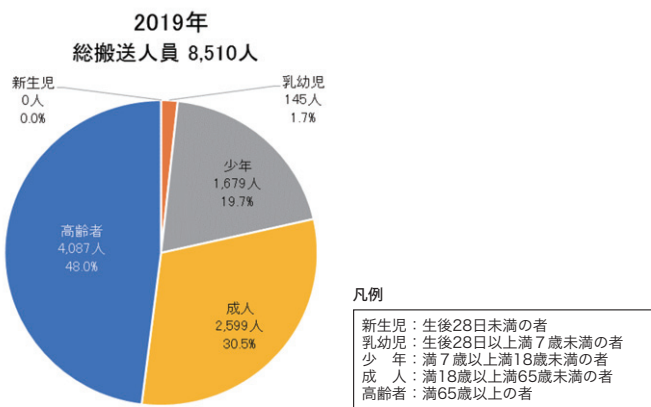


図3

④ 傷病程度ごとの救急搬送人員（図4）

4月29日から6月30日までの熱中症による救急搬送人員の合計8,510人のうち、軽症5,868人と最も多く、次いで中等症2,405人、重症147人、死亡12人となっています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

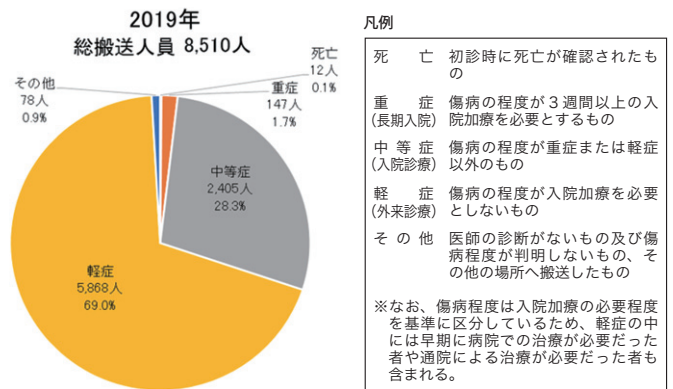


図4

⑤ 発生場所ごとの救急搬送人員（図5）

4月29日から6月30日までの熱中症による救急搬送人員の合計8,510人のうち、住居が2,578人と最も多く、次いで道路1,358人、公衆出入り場所（屋外）1,229人、教育機関1,106人、公衆出入り場所（屋内）718人となっています。

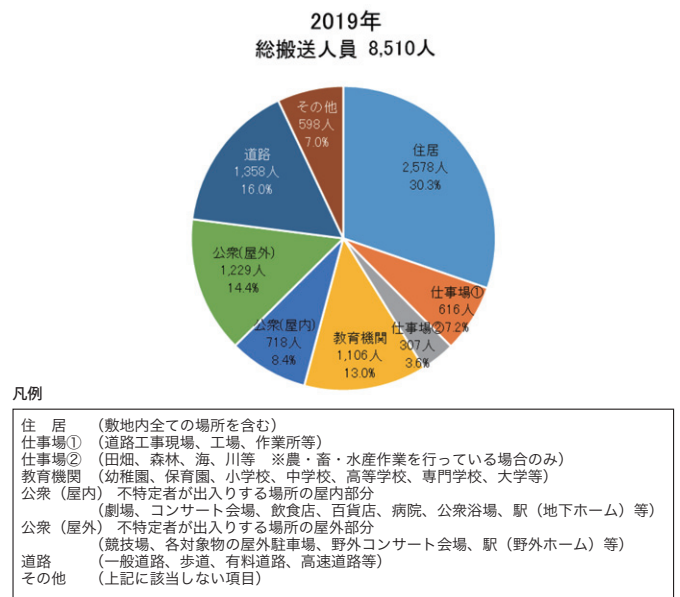


図5

3 熱中症予防のポイント

熱中症は予防が大事です。熱中症にならないために、以下の項目に心がけましょう。

- ・部屋の温度をこまめに確認し、室温28℃を目安に、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。
- ・のどが渇かなくても、こまめに水分補給をしましょう。
- ・外出の際は、体をしめつけない涼しい服装をし、帽子をかぶるなど日よけ対策もしましょう。
- ・無理をせず、適度な休憩をしましょう。

- ・日頃から栄養バランスのとれた食事と体力づくりをしましょう。

4 消防庁の熱中症予防啓発の取組みについて

消防庁では、熱中症予防啓発を目的として、消防庁HPの熱中症情報サイトに、予防啓発コンテンツ（予防啓発ポスター、予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防広報メッセージ、熱中症対策リーフレット）を提供しています。

同サイトにはあわせて、都道府県や消防本部による熱中症予防啓発の取組事例集を掲載していますので、各消防本部は、取組事例集を参考に、必要な場面に応じてコンテンツを御活用ください。

5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、暑さが続く夏に対して、引き続き予防啓発に努めていきます。

消防庁熱中症情報 http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

熱中症を予防して元気な夏を!

夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう!

このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。

救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行く必要がある状態や、症状についても紹介しています。当てはまる場合は、急いで119番しましょう。

※消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」や「救急利用リーフレット」も合わせてご覧ください。（上記のQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで、簡単に接続できます）

Q助サイト | 救急利用リーフレット

消防庁 FDMA <http://www.fdma.go.jp/>

子供の特徴

- 汗腺などが未熟
- 地面の照り返しにより、高い温度にさらされやすい
- 体温調節機能が未熟なため、熱中症にかかりやすい

保護者の方へ

- お子さんの顔色や汗のかき方を十分に観察しましょう!
- 遊びの最中には、必要に応じて水分補給や休憩をとらせましょう!
- 日頃から外遊びをさせて、暑さに慣れさせましょう!
- 外出時は熱のこもりやすい服を避けて、帽子をかぶりましょう!

高齢者の特徴

- のどの渇きを感じにくい
- 汗をかきにくい
- 暑さを感じにくい
- 体温を下げるための体の反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険がある

熱中症にならないために

- 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用!
- のどが渇かなくても水分補給をしましょう!
- 調子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう!

熱中症の応急手当

- 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす
- 首の周り・脇の下・太もものつけねなど太い血管の部分を冷やす
- 飲めるようであれば水分をこまめに取らせる

持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう

熱中症予防対策リーフレット

問い合わせ先
消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529